第２章　学校という包括的移行支援機関

１．はじめに

本章の目的は、新規学卒一括採用という包括的な就業支援の主たる担い手であった学校が現在どのような状況にあるのか、若者の移行過程の検討を通じて浮かび上がらせることにある。

若者に対する就業支援は、制度や慣行などのかたちでそれぞれの社会に埋め込まれている。より詳細に見てみると、若者就業支援策は、包括的支援とそれを補完する支援の組み合わせ、具体的には学校段階での移行支援と学校を離れた後の失業対策の組み合わせから成っている。たとえば、ドイツのデュアルシステムとＪＵＭＰプログラム、アメリカの移行機会法と不利な立場に置かれた若者に対するジョブコアなどの支援などの組み合わせがその例である（労働政策研究・研修機構 2004)。日本においては、新規学卒一括採用という慣行が、若者が学校から職業へ移行するための支援として機能してきた。特に高校生の就職の場合、企業と学校の信頼を基盤とした継続的な取引関係である「実績関係」は、学歴の高くない若者を職業に移行させるシステムとして国際的にも高く評価されてきたのである。

しかし現在、日本においても若者への就業支援政策の必要性が認識され、議論されはじめている。これは新規学卒一括採用がなくなったわけではなく、新規学卒一括採用での支援が届かない層が増加したことが背景に存在する。

日本においては包括的な支援である新規学卒一括採用がうまく機能していたために、ここからこぼれおちてしまった若者に対する補完的な支援はこれまであまり存在していたとは言えなかった。そのため日本においては、包括的な支援で移行できなかった若者は、個人で移行の道筋を再構築せねばならなかったのである。

しかしながら、個人任せの移行の再構築は近年難しくなりつつある。これは単純に、学生でも主婦でもない、若いパートタイム労働者を主に意味する「フリーター」の増加だけを指しているわけではない。データは 1997 年までとやや古くなるが、『就業構造基本調査』の再分析によれば、正社員を目指しながらフリーターを続けている若者、すなわち正社員志向のフリーターが、正社員へ移行できる割合は低下しつつある（小杉礼子編 2002)。

このような状況に対する支援の方向性には在学中の包括的支援の密度を高めるとともに、学校を離れた後の補完的な支援が考えられる。補完的支援については他章で扱い、ここでは主に学校が行う包括的支援に焦点づけて考える。

新規学卒者一括採用は、高校の場合学校が直接就職斡旋をするため、高校生にとっては学校という機関が包括的支援として現れる。大学生にとっては、高校とは比較にならないが、大学の就職部も支援機能を持っており、また大学進学自体が本来就職を有利にするための選択としての側面を持っている。

以下ではインタビューを用いて、学校段階別に彼らの語りの中を見ていく。特に高校で学

校を離れる若者については、高校が移行支援の中心を担っているため、高校について検討する（３章において、特に高校で学校を離れた若者と学校について詳しく分析をしている)。

学校段階別に検討するのは、最後に離れた教育機関がその若者にとっての移行支援を担うことになるためである。また学校からの移行先である労働市場の状況は地域別に異なるため、地域という変数にも考慮しながら検討を加える。

２．高校卒業者・高校中退者にとっての学校

すべての若者が同じように、学校におけるさまざまな規則や規範を受け入れ、実現しようとするわけではないことはよく知られている。最も典型的な例としてあげられるのは、イギリスの労働者階級である。学校になじみのない文化で育った若者は、学校における価値を受け入れずに、自ら学校から離れていく。

しかしながらこれまで日本においては、「メリトクラシーの大衆化状況」（苅谷 1991）が存在するとされてきた。日本の学校では、すべての者が学校におけるメリット（業績）という基準を受け入れ、その基準に沿って「がんばる」。かつて日本においては、上位ランク、下位ランクそれぞれに、少しでも学校ランクが上の高校に進学したいと願うものであった。この「分相応のアスピレーション」（竹内 1995）によって競争の加熱が維持されることが、日本の選抜の特徴であり、優秀な労働力を養成する礎だとされてきたのである。

しかしこうした認識に対する疑問が近年指摘されつつある。近年蓄積されつつある高校研究、特に大都市の進路多様校における「脱学校的」傾向はこうした認識に再考を突きつけている（樋田ほか 1999　耳塚編 2002　耳塚編 2003)。

こうした学校の位置づけの変化がどこでどのように起こっているのかは様々な見地から検討されねばならない。しかし本稿ではまず、業績主義へのコミットメントの指標として高校の選択理由という観点に着目し、高校生活とその後の進路選択という過程について検討することにより、移行過程において高校がどのような役割を果たしているのかについて考えてみたい。

高校を選択するにあたって、中学時の成績がよければ選択の幅が広がるのは当然である。けれどもこれまでの研究を振り返るまでもなく、高校の選択は、自分の成績に応じたランクの高校にすすむのが当然だとされてきた。しかしこれは何も日本だけの傾向ではないであろう。日本の特異な点は、すでに述べたように、それぞれに「もっといい高校へ」すすみたがるというところにある。成績上位者は当然としても、成績中位・下位の者においても、ちょっとでも上のランクの高校へのアスピレーションをかき立てられるのである。すべての者がそれなりのアスピレーションを持つというのが、日本的な特徴であった（竹内 1995)。高校の選択の理由や基準はまだ優秀な労働力を生み出す仕組みを備えているのだろうか。そして高校選択理由に象徴される業績主義志向はいぜんとして存在するのか、そしてその後の軌跡とはどのようなものなのだろうか。

本稿のインタビューの対象者は関西地区と東北地区、首都圏地区にわたっており、地区の特徴であるのか高校の特徴であるのかは判別できないものの、今回の対象者は地区ごとにおよそ次のような特徴がある。関西地区の対象者には中位以下の普通科が多く、東北地区は私立の商業系学科が大半である。彼らのほとんどには、上位ランクの高校に進学するという選択肢はほとんどない。これに対して首都圏は学歴が高く、大卒が多い。

業績主義的価値へのコミットメントの指標としての「高校の選択理由」を軸に、そこに至るプロセスとその後の高校生活や進路を追っていくことで、移行過程を浮き彫りにしたい。

2.1　関西地区

高校進学に成績の制約があるといっても、それなりに彼らにも選択肢が残されている。けれどもその選択肢を選ぼうとするとき、ちょっとでも上の学校ランクの高校に行きたいという動機が決定的に働くことはまれである。彼らの選択の中で優先されるのは、「友達」「家から近い」という条件である。「学費」という経済的な条件も無視できない。以下では、どのようなプロセスでこうした選択に至っているのかを見る。

（3bm）は、友達が行く、私立は学費が高いということで、「適当に」高校を選択している。（3bm）は小学校はきちんと行っていたが、中学校２年になってあまり行かなくなった。行かなくなったのは、行ったら行ったでおもしろいが、学校に行くために起きるのは面倒で、「だるいから」であった。授業はおもしろくないが、ノートはとっていた。授業中に席を移動して友達と話すなど、授業を妨害することは楽しかったという。

> 小学校はちゃんと行っとって、中学校１年はちゃんと行って、２年はそこそこ行って、３年は、行ったり行かんかったり。<u>だるいから。行ってもすぐ帰ったりとか。学校行くために起きるのは面倒くさい。学校はおもろかったけど、行ったら行ったでおもろいけど、行くまでがだるい</u>。*（前の晩は？）*普通に。11 時かそこら。そんときは家で。
> 授業はおもろない。勉強は嫌いやけど、ノートだけはちゃんととっといて。成績は悪いと思う。*（おもしろい先生とかおりはりました？）*おれへん。っていうか１人も。*（ノートをとっていたのは、テストに備えてとか？）*そんなんじゃない。ノートは一応とっとこうかなとか思って。<u>授業中もおもろかったけど、授業としておもろいんやなくて、自分らで勝手に遊ぶからおもろい。席移動して友達としゃべって、全然授業無視して。*（先生うるさいちゃいますの、「静かにせい」言うて？）*そんなん、別に言われたってほっといて、しつこかったらキレて、反対に授業つぶして</u>。*（話できる先生はおらへんかった？）*おったんはおったけど、話したいとも思わへんかったから。
> 好きな先生もおるけど、自分らの学年にはおらんかった。３年間一緒の担任か副担やったから。副担が担任になったり担任が副担になったりで３年間ずっと一緒やったから。普通の教師より、校長や教頭のほうが仲よかったから。話しするんだったら校長、教頭のところ行って。

（3bm）は規則正しい生活が要求される学校になじもうという気持ちは薄く、また先生を、学校においては従わなくてはならない権威を持った存在とは見ていなかった。中学卒業後の

進路についても、特に高校に行きたいというわけでもなかったため、料理が好きということで調理師学校への進学を考えた。しかし基本的に進路については口を出さない母が、調理師になりたいなら学校に行っても身につかないので、実際に働いて身につけるようにと言ったため、働くよりは高校に行っておこうかと考え、高校進学に決める。もともと高校に進学しようという気持ちが強くない中での高校の選択は、「適当」になった。

> *（中学校の先生が「ここ行ったらどう」という感じで？）*友達と最終的に○○高校に行こうと思って。私立と○○と、もう１校、一次選抜で商業。商業落ちて、私立と○○だけ受かって。私立高いからただ滑りどめで受けただけやから、○○受かったから。公立やから受かったらそのまま行かなあかんから、絶対。
> *（商業に行こうと思ったんは？）*、何か適当に受けとこかと思って。友達と２人で。三者面談とか、あんま行ってない。懇談もほとんど受けてないし。面倒くさいし、僕も別に行きたくなかったし。全部家庭訪問でした。（先生に）全部家に来させて、話終わらせて。
> （高校生活は）１年のときは普通に行っとったけど、２年ぐらいから休みまくって、１学期はまじめで２学期から休むようになって、３学期もほとんど休んで。留年したから。留年したらやめるって決めとったから。
> *（高校２年生の２学期ぐらいから行かんようになってきたきっかけは？）*だるかったから。行ったらおもろいけど、朝起きるのちょっとだるいし。
>
> **＜3bm・17 歳・高校中退・男性＞**

適当に選んだ高校だったが、行けば楽しく、１年生の時は行っていた。しかし２年生で「だるかった」ので学校に行かなくなり、留年が決定したため中退する。留年したらやめると決めていたと語っている。中退の際には、母が学校をやめるなら働くように言い渡したため、アルバイトをはじめる。はじめは短期のアルバイトだったが、現在は寿司屋で見習いのようなアルバイトをしている。今のところはすし職人になるかどうかは決めていないものの、具体的な職業と将来の見通しについて考えている状態にある。

このケースは、座学中心の学校には適応できないかもしれないが、働くことは嫌いではないタイプの若者である。母のアドバイスも、学校に行くよりも実地で学んだ方がよい、高校を中退することについては口出しをしないが、中退したいなら働くことを約束させるなど、勉強することよりも働くことを重視する姿勢が浮かび上がってくる。彼らは学校に行くのはだるいが、仕事にはきちんと行くのである。また職人であれば、「10 代のころに覚えた方が覚えは早いから」と本人が語っているように、若いときに仕事を始めた方がよい側面もあり、進学することがいいとは一概には言えないのかもしれない。しかし産業構造の変化により、職人の仕事を失うような事態に直面したときには、高校を卒業していないということは本人がキャリアを再構築する上で、大きなマイナスになる可能性もある。

（28cf）は、中学時部活のテニスに燃えていた。当初テニスが強い私立高校に進学しようと思っていたが、運良く公立高校に受かった。学費を考え公立高校に進学したものの、高校はテニスが盛んではなく、がっかりしてすぐにバイトに打ち込むようになった。一時は２つ

のアルバイトを同時並行でこなしていたときもあった。

勉強はテスト前しかしなかったですね。学校に来てても、あんまり勉強せずみたいな。*（疲れててというのは？）*ちょっとあったかもしれない。基本的に、ほんまに勉強するの嫌なんですよ。
授業中は、１年のときはちゃんと授業を受けていたんですけど、２年ぐらいから気が抜けて、寝たりとか。先生とかに悪いんですけど、寝たりとか。１年は欠席とか遅刻もせず、寝ずに頑張って授業を聞いて、ノート写すだけですけど、まあ、まじめにやっていたという感じですね、１年のときは。でも、２年生のときから、遅刻もぼちぼち、欠席もぼちぼちみたいな感じで。
３年は遅刻魔でしたね。よく昼休みに学校来て、先生とかに、「おまえら、またか」とか言われていましたね。友達と遅刻していたんですよ、一緒に。朝早く、早くといっても 10 時ぐらいなんですけど、それぐらいにぱっと起きて、携帯見たら、友達からメールとか入ってて、まだ学校に行ってない友達が「あんた、もう学校行ってる？私、まだなんやけど」って入ってたから、電話して、「ごめん、今起きた。今から行こうや」とか言って、その友達と行く途中にファミレスとかやっぱりあるじゃないですか。そこに寄って御飯食べて、学校来て。
*（寝坊しているということは、疲れているんじゃないかなとおうちの人が、大丈夫かなとか心配したり？）*はあんまなかったんじゃないですかね。１回ちゃんと起きるんですよ。目覚ましとか鳴って起きて、で、親にも起こされて、起きるんですけど、もうちょっと寝たいというのに負けてしまって寝ちゃうんですよ。
見逃すというか、ほっとかれていましたね、完璧に多分。言ってもきかないから。好きにしいやって。*（最初はちゃんと学校行きやとか、早く起きやとか？）*言われていたんですけど、ダブったら自分のせいやねんからって感じでしたね。
（バイトのことに関して心配していることは？）、別になかったです。バイトしていても、逆によかったん違うみたいなのはありますけどね。お客さんとか、年上の人とかと接することによって、言葉づかいとか、あるじゃないですか、あいさつとか、礼儀とかやっぱりちゃんとしないといかんじゃないですか。そういうのが身についていいん違うという感じでしたね。お母さんとお父さん、両方。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

高校卒業時には、料理が好きだったため、はじめは専門学校を希望した。しかし両親に、学校に行くよりも見習いで就職し、調理師免許をとったほうがいいと言われ、就職活動をしたが、内定をとることはできずに卒業し、在学中からのアルバイトを続けている。

学校から、就職できなかった組といったらおかしいですけど、できなかった子らで、まとまって、（ハローワークに）先生たちが連れていってくれたという感じ。でも、そのときは、こんな感じの部屋、特別な部屋みたいなのを用意してくれて、みんなで求人票をばーっと見て、気に入ったのがあったら、コピーしてくれてという感じでしたね。３年生の終わりらへんとか。（仕事を見て）あんまりないなあって感じでしたね。
最初は、進路のグループは専門学校組だったが途中で就職に。夏休みかな。就職組の人は学校に何回か来て、求人票みたいなのを見て、それ、友達についてこいって言われて、結構ついていって、一緒に見てました。
*（９月の１次には？）*別に行かなかった。そのときも別に大したもんないなという感じかな。自分がやっぱりやりたいことがあったら。行ってましたかね。*（今はやりたいことをどう見つけようかなっていう？）*、そんな感じ。

＜28cf・19 歳・高卒・女性＞

学校を通した就職には関心が高く、また進路指導担当教員についてハローワークを訪問するなど、学校の行う支援にはのってきている。

以下のケースにも見られるように、「勉強よりも手に職」と考え、高校は適当に選ぶという若者は一定数を占めている。

（高校進学の際）そのとき、高校に行くか、専門学校に行くかで迷ったんですけど。調理（の専門学校）です。みんな、やっぱり中学を卒業したら、専門学校よりは結構、高校へ行くじゃないですか。そういうところもあるし、別に高校を卒業してからでも遅くないかなみたいな感じですね。
（高校選択の際）僕は違うところを受けようかなと思っとったんですよ。それでそのときの担任の先生に言うたら、別にそんな冒険せんでいいと言われたんですよ。で、仲のいい友達が○○を受ける言うたんで、まあ、○○にしようかなみたいな。

＜40cm・19 歳・高卒・男性＞

また（20cf）は、中学時に家庭内の人間関係でしんどい状態にあり不登校であったが、家庭の状況が好転するとともに、高校進学へ希望を持ち始めた。高校見学に行くなど高校選択に対して積極的に行動しているが、不登校だった中学時代の生活では朝電車に乗って遅刻せず学校に行くことが難しいと感じたこと、また高校受験についての情報は特定の友達からの情報に限られていたが、友達の話では総合学科は自由に授業を選べておもしろそうということから、高校決定の決め手となったのは、自転車で行ける総合学科であった。

（総合科に行きたいなと思ったのは？）、最初から熱心やった友達が、総合学科というのはいろいろなものを選べるとか、いろいろなやつができるところやねんでという話で、その子は芸能文化科みたいな、芸能系のほうに進みたいと、演劇とか、最終的には声優になりたいと言っていたんですけれども、そういうのんがいいからと言って、じゃあ、声優とかになりたいと言っているような子でもそういう学校に行けるところがあるんやと思って、聞いたら、普通のかた苦しい授業ばっかりじゃなくて、実験してやるようなやつもあるんやでと言うていたので、じゃあ、これやったら総合学科へ行ってみようかなと思って。そのころは、何か高校へ行ったらこんなことをやれるのかなとかいう楽しいところばっかりちょっと考えてしまっていたので。何となく、体験入学が一通り終わって、じゃあ、自転車で通える××高校でいいかなと思って決めたような気がするんです。

＜20cf・18 歳・高卒・女性＞

（20cf）は大きな期待を持って高校に進学したが、期待を裏切られ、それなりの高校生活を過ごした。高校卒業時に就職を希望するも、校内選考で落ちてしまう。その後進学に切り替え、大学を目指しているが、学力と金銭的な面で厳しい状況にある。

（23cm）は、中学時の成績はそれなりによく、自分の成績よりもちょっと上の高校に行きたいと思ったが、行こうと思った高校が遠かったため、友達が行く近くの高校に進学する。

うーん、何なんですかねえ。僕、最初は、わかんないと思うんですけど、△△っていう高校に行こうとしてたんですね。でも、すごい遠いんですよ。毎日行くのに、これはだるいなあって思いました。自分の成績から見て、ぎりぎりのところに行きたいじゃない

ですか。ちょっと背伸びしたかったんです。その頃、塾行ってたんですよ。「△△はちょっとおまえ、ぎりぎりやな」とか言われてたんで、「じゃあ、やってやろうじゃねえか」みたいな感じ。
（しかし実際には）「あ、やっぱ、いいかなあ」って思っちゃいまして。僕んちから○○が結構近かったんです。（○○高校は）友達も結構多かったんで。

＜23cm・21 歳・高卒・男性＞

（23cm）は高校進学後、成績もよく進学するつもりだったが、家計の状況を見て、公務員試験に切り替える。しかし２回失敗し、自分の天職ではないかもしれないと思い、前から好きだった洋服関係の仕事をはじめている。

（20cf）（23cm）は、いったんは高校の選択について考えたものの、志望校の決定については家から近いことを重視した。高校進学後は就職、進学とそれぞれの希望があったが、高校卒業時の進路選択は、就職が難しかったことや家計の状況、学力不足から希望を断念し、それぞれ進学と公務員試験へと希望を変えた。希望は今のところかなっていないが、当面の目標は持っている。

（51em）は、小学校の時はとても勉強ができたが、中学では部活でバレーボールに打ち込んだ。そのため練習ばかりで、宿題以外勉強したことがなかったが、バレーボールでの推薦を受けられるようなスポーツの得意な生徒であり、成績は悪くなかった。しかし打ち込んでいたバレーボールで体をこわし、進路選択時にはややなげやりとも言える状態にあり、詳しく考えることもなく友達と同じ高校に進んだ。

××君が中学から一緒なんですけど仲よくて、○○へ行くと。それなら俺もそこでいいやという感じで。中学の先生に最もやったらあかんと言われていたやり方で高校を選びました。友達が行くからとか、そんな理由で選んだらあかんよとずっと言っていたんですけど、もうええやと。高校へ行くのもどうでもよかったんですよ。行かんでもいいかなと。
（先生に）ここでいいんかと言われて。僕よりも成績の悪い子が１個上の高校へ行っていたりしていたんで。

＜51em・22 歳・専門学校卒・男性＞

（51em）は高校進学後、一時期理由もなくまったく行かなくなり、中退しようとアルバイトをはじめた時期があった。しかし母が泣いているのを見て思いとどまり、何とか高校卒業にこぎ着けた。卒業時には、あんまり真剣ではなかったためよく覚えていないが、四年制大学は成績で難しいということで建築の専門学校に進んだ。卒業後就職した会社の労働条件が当初示されていた条件とまったく違ったため、２、３ヵ月でやめる。現在はバンドで成功することを目指している「べたなフリーター」である。節目では投げやりとも言える態度で進路選択をしてきた（51em）であったが、現在は「もうこれしかない」とバンドに打ち込んでいる。

（37cm）は、中学時代あまり学校に行っていなかった。中３になって高校に行きたいと思い、ちょっとずつ高校に行きはじめる。先生の薦めで高校を選択する。高校に進学してからは、中学校に比べて高校は雰囲気が自由で、友達も様々な地域からやって来ていたため、おもしろかったと語っている。留年することはなかったが、アルバイト中心の高校生活を送った。

*（ちなみに高校の時は、クラブ活動は？）*サッカー部を。とりあえず、バイトのない日だけ出るっていう。バイトが先、優先ですね。（あんまりこの高校は）クラブは、盛んではないですね。<u>バイトばっかりですよ、多分。そっちが一番やと思いますよ。</u>
*（バイト行ったんは、小遣い稼ぐため？）*金使う遊びしか、しなくなりますからね。この年なってきたら。高校生なってきたら。ま、カラオケいったり。この辺遊ぶとこ、ないっすけどね、それ位しか。高校生なったら、服とかも気つかってきますし。ん、だいぶ金かかるんで。
（家から小遣いは？）、<u>もうバイト始めてからは、ほんとに貰ってないですけど</u>。*（家からのお小遣いとアルバイト料の二重取り？）*<u>まで、できなかったです。ほんまに</u>。
（典型的な高校生活の一日は？）<u>学校来て寝てって感じですかね。学校で寝て</u>。<u>バイト行って、晩から朝まで、ベース触ってて、いう感じですかね</u>。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

高校卒業後の進路を考える時期になり、就職活動をして内定を得たが、入社式の日取りも分からずそのまま放棄してしまった。

もう全然仕事は、一度しかけたんですけどやっぱ、まだいいかなと。*（就職活動は？）*しました。
もう進学ということが頭になかったんで。職種っていうのが、ほんまに全然なかったんで、仕事選ぶということもできない位でしたね。「どれがいい」というのがないんで。
<u>いや、受かってたんですけどね。入社式の日取りとかの情報がなくて、「あったんや」と思うんですけど、学校が忘れたのか、僕が忘れたのか分からないですけど</u>。もう、そのまま。
<u>*（学校の先生とかが、「一応こういう所、どうだ」という形ではなく？）*、いやもう「近いとこ、金、いいとこ」いうくらいで、僕が自分で決めた所です</u>。わけ分からん会社なんですけど。入社してへんけどみたいな。*（それっきり連絡ない？）*ですね。
*（その会社を見つけたのは？）*学校の案内見て。「もう、ここでええわ」近くて、土・日休みでという感じ、ほんまに楽なとこという理由で選びましたけど。*（給料なんかは？）*、まあ、普通のところ。
*（入社式、行かへんかったら？）*一回電話かかって来ましたね、学校から。「そんなん、こっち知らんもん」言うくらいですわ。
<u>（進路の先生に）「謝りに行こうか」とか言われたんですけど、そんな、「謝まって入るぐらいやったら、もう辞めとくわ」って、会社辞めました。「また、一緒に職安行こうか」とか誘ってくれましたけど、さすがに「そんなん自分でする」って</u>。

＜37cm・19 歳・高卒・男性＞

その後高校時代から参加していた祭りの活動を中心に、アルバイトをしながらバンドでの成功を夢見て暮らしている。

（18cf）は、友達が行く公立高校に行きたかったが成績面で厳しく、私立高校に進学した。

先生とうまくいかずやめたかったが、高いお金を出していっているからと何とか通った。しかし卒業の段階になって、学校の就職推薦の基準に従って外見を変えるような行動はできないという気持ちと、希望する求人が学校には来ないという理由から、学校を通じた就職を拒否している。

> 進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。だから、そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。
> ショップで働きたかったので。服屋さんで働いている子から、服屋さんの面接は学校には来ないと聞いていたから。服屋さんで働くために、別に行動はしていなかった。服屋さんで社員になりたいとかではなくて、服屋さんで働けたらバイトでもいい、若いうちしかできへんしという感じやって。バイト募集を探すとか、そういうのはしていた。卒業してから（店員になった）。
> *（学校があっせんする就職ルートは？）*まったく。（どんな口があるか）もう見る前から。３年ぐらいになったら、卒業間近でなくても進路のことを聞かれたりするけれども、全然進学する気もなく、就職する気もなく、興味もなかったし。
> 学校から就職するといったら、めっちゃ面倒くさいような感じもあったし、成績が多少関係あるじゃないですか。あまりにもあほやったし、ほんまに。だから。化粧とかに途中からめっちゃ厳しくなって、そんなんを言われること自体がいややって、面接の練習みたいなものがあったときも、スカートを下までおろして、ボタンも全部閉めて、化粧を全部取らされたりして、そんなんしてあほちゃうかって。髪の毛はめっちゃ厳しかったから真っ黒やったけれど。そんなのをする前から化粧とかを毎日言われていて、就職を希望している友達のスカートがめっちゃ長くて、そんなのを見ていたら余計に関係ないという感じで。
> 「後から後悔する」とかは、先生がよく言っていた。それで、就職する気はないとずっと言っていたら、卒業間近になったら短大とかをめっちゃ勧められて、そんなんのほうがちゃんちゃら行く気はなくて。勉強にしても身だしなみのことを言われるにしても、「今我慢したらいいねん。卒業したら好きなようにやれんねんから」とか。（就職）したほうがいいぞとは別に。就職はしいひんって言っていたら、「何か行くところがあるのか」と言われて、別にないけれども、バイトでもいいという感じだったから、結構しつこく「お父さんにはちゃんと相談して」とは言われてて。
> *（「バイトでもいい」と言うと、先生は？）*「やはりちゃんと高校も出て、するんやったら就職したほうがいい」って。それか、専門学校とか、看護婦の学校に行きながら病院で働くというものも勧められたり。高校まで出てんねやったら、バイトじゃなくて、就職口はあるんやからって。行けるかどうかはわからんけれども、学校に来ているじゃないですか。求人は来とって、就職する子はみんな、放課後とかに見に行ったりしていた。（自分は）見に行ってもない。（笑）
>
> **＜18cf・20 歳・高卒・女性＞**

成績が悪いため学校を通して就職することは難しいだろうと予想しているが、もし学校を利用するとしても、就職するためにスカート丈を直したり、髪の毛を黒く戻すようなことはしたくはない。もし希望する求人が学校に来たとしても、学校推薦にかなうような外見にしたくなければ、学校を通じた就職は難しいであろう。こうした生徒は、学校を通じた就職は難しいと考えられる。

この生徒は卒業後、洋服の販売のアルバイトに就き、楽しかったと語っているが、憧れていた洋服店からアルバイトに来ないかと言われたため、そちらにアルバイトを変えた。しかし実際に働きはじめてみると、好きな洋服を着てお店にでられないきまりだったため、不満に思いすぐにやめてしまい、そのあとアルバイトを転々としている。

学校を通じた就職にのらない、拒否する高校生は少なくない。高校生の就職の場合、学校を通じた就職をするためには、学校のきまりに従う必要があるが、先行研究によれば、フリーターや進路未定者は進路指導への期待の度合いが低いことが指摘されている（堀 2000）。また進路多様校においては、クラスの担任の先生のフルネームさえ言えない生徒の割合もけして低くなく、学校への関心度は低い。教員側から見ても、フリーターになっていく生徒は、そもそも卒業見込みがたたず、進路指導の対象外となっていることもしばしばである（耳塚ほか 2002）。

2.2 東北地区

東北地区の対象者の特徴は、私立の商業系学科出身者がほとんどであるということである。地方では、第一志望が公立、第二志望が私立であることが多い。つまり彼らの中学時代の学力は高かったわけではなく、第一志望の公立に落ちたという者もいる。しかし学校ランクや合否という制約は大きいが、選択基準としてまず挙げられるのは就職がよいかどうかである。高校進学の際に就職を考え、就職がよいという評判の高校へ進学している。専門学科からの進学が増加したいまでも、専門学科＝就職という意識は浸透している。これは関西地区とはまったく対照的な高校進路選択である。

（43cm）は、高校入学以前から就職を希望し、専門学科に進学した。

> 一応専門学校とか大学は行かないで高卒で就職しようと思って、ここのビジネス科に入ったから。はっきりというか、大学とか専門学校とかには行かないで働きたいなと半分くらい思っていたんで。
> 中学校３年になるとやっぱり進路のこととか、高校からまた先のことを考えなくてはいけないんで、ある程度は大学とかは行かなくていいかなと思ってたんで。
> *（早く独立したいとか？）*、そういう意味じゃないんですけど、大学とか勉強するのが嫌だった。
>
> **＜43cm・20 歳・高卒・男性＞**

卒業後、とにかく就職したいと、仕事にこだわらず、保険などは備えている会社を探した。がんばって働いたが、労働条件の厳しさから離職し、現在は慎重に仕事を探している。

（26cf）も、高校を選ぶ際の基準は就職であった。はじめは看護師を考えたが、成績が足りなかったため、次に美容師を考えた。美容師でやっていくためには商業の勉強をした方がいいかと思い、専門学科を選んだ。

その時は看護師になりたかったんで、それで○○高校の方にちょっと「行きたいなー」っていう気持ちはあったんですよ。県内ではそこしかないんで結構…。やっぱ成績面からしても、ちょっと、もう少し頑張んなくてはダメなんじゃないかとか、通学の面からも、ちょっと厳しかったんですよね。電車、乗り継いで行かなくちゃいけない場所だったんで。
やっぱこう実際に考えてみると、血が結構だめな方なんですよ。「はあー」みたいな、ちょっとこっちが下ってきてしまうような、「あ、ダメかなー」って。ただ「なれればいいな」って、憧れみたいな感じだったんですけども。
今度は美容師の方にちょっと芽生えたというか。それで一応その経営するために、商業の方とかも「学んだ方がいいのかな」と思って。一応商業科のあるところ探して、あの△△高校が私の入る年から総合学科になったんで、そこでも結構学べたからそっちの方も受けたんですけど、ちょっと落ちてしまって。で、こっちの方が受かったもんで、はい。

＜26cf・20歳・高卒・女性＞

高校進学後、成績もよく、真面目な学校生活を送り、就職活動をはじめる。先生に積極的に相談し、求人票だけではわからないような情報も得るなど努力をしているが、思うような求人がなく、受験には至らなかった。

（美容師は）先生とかから話を聞いたりして。高校卒業して見習いとして美容室に入って２～３年かけて取るって人もいるんだって聞いて。でも、もしなんか「途中で挫折してしまったりして免許を取れなかったら、その間の期間はフリーターとしてしか見られないから」って言われて「考えろ」って言われて考えて（やめた）。６月。
んー。（そのあとは）とりあえずは美容師というのは考えなかったですね。ほかの職で何が合ってるのか…、いろいろ考えたんですけど、やっぱよく分からなくて。求人票とか見て「ここ受けたいですけど」っていうと、（先生が）こう何かこっちの方がいいっていうか、ここはどういうとこかとか、条件とか色々聞かされて、多分、女は採らないとこだとか。そういうのがあって。
１つも受けてないです。はい。それで２月か３月あたりに、あの先生からインターシップの話聞かされて「じゃ受けてみようか」と思い受けて、去年の４月から１年間いたんですけど。
（先生が薦めてくれたところは）お菓子の製造とか薬屋さんとか。製造ではなく販売ですね。条件というか、それは○○市内だったんですよ、その薬屋さんというのが。通勤のことを考えるとちょっと無理かなっと思って。駐車場も無かった所なんで自分でとるか、それか電車とかバスとか使って行かなければダメだという所で。で、それを考えると給料からやっぱ毎月５千円・６千円引かれていくことを考えると。△△市内のは殆ど無かったですね。△△市自体があんまり企業がないので。

＜26cf・20歳・高卒・女性＞

高校卒業前に就職を決めることはできなかったが、県のインターンシップに合格し、アルバイトではあるが事務の仕事に就いた。その契約期間がきれたあと、職場の紹介で別の事務のアルバイトで働いており、正社員を希望している。

こうしたタイプの生徒は、求人があれば学校を通じた就職が可能だった例である。

（24cf）（25cf）（27cf）とも就職を希望しており、就職に向けた活動を行っているが、労働市場の状況が厳しく、就職することができなかった。以下のケースも、高校選択に当たっ

て就職を考慮し、専門学科に進んだ。高校卒業時も就職を目指し活動を試みたが、厳しい労働市場の状況からうまくいかなかった。しかしそれぞれがアルバイトを探しにハローワークへ通うなど積極的に活動している。

（情報学科は）中学校の先生から就職がいいみたいなこと聞いて、それであーって入った。中学校のときから高校卒業したら就職しようと漠然と思っていた。

＜24cf・19歳・高卒・女性＞

第一志望ではなかったんですけど。他の商業関係の高校、（公立の商業関係を志望していた）、で今の学校、で、学校生活楽しかったし、まあいいかなと。

＜25cf・18歳・高卒・女性＞

最初は私、食物関係の方に行きたかったんですけど、でもなんか、就職のこととか考えたら情報処理とかやってたほうがいいのかなと思って、そして、最終的に○○に。自分の家からも自転車で通えて、商業科もあるってことでここ選んだ。
最初は、ほんとは公立に行きたかったんですけど。そういうコースがあって、そこに入りたかったんですけど、そうすると私立とかけもち、併願で受けるのが難しくて、で、私立って考えたら○○か、△△かどっちかって考えてたんですよ。最終的に商業っていうことでこちらを選んだ。

＜27cf・18歳・高卒・女性＞

こうした卒業後の進路を意識した回答の一方で、「電車通学をしたい」「姉が行っているから」という回答も見られる。これは「友達が行くから行く」という理由とかなり似ている。（14cm）は、「女の子の制服がかわいく」「電車通学をしたい」という理由で高校を選び、専門学科しか入れなかったということで専門学科を選択した。

（○○市から通学していたのは？）、女の子の制服がいいと思って。*（△△市の学校に行きたかったのは？）*、中学校の時に電車通に憧れていたので。（学科は）ビジネス科でないと入れないと言われて。

＜14cm・19歳・高卒・男性＞

（14cm）は、高校進学後、電車で学校の近くまで来た後に学校に来ないで遊びに行くことが多くなり、出席が足りず、就職のための学校推薦の基準に達しなかった。そのため卒業時には就職活動はしておらず、その後父の紹介で契約社員になったが離職した。現在は無職であり、ハローワークなどで仕事の検索はしているが、就職活動には至っていない。

（19cf）は、姉が行っているからと高校を決め、高校進学後はアルバイトに打ち込んでいる。

いいえ、とくにやりたいことはなかったんですよ。同じく姉が○○の情報処理科に行ったんで、コンピューターを覚えておいたほうがいいかなと思って。ですね。
（バイトは）無許可で。高校入ってすぐにやりました。いま働いてるオーナーの、もっとちがうなんか、コンビニなんですけど、そこで。人は同じなんですけど、場所はちがう。（時給は）650円です。けっこうバイト、バイトってすごい入ってたんで。月５、６

万、高校１年のときにもらってたんで、まあ遊ぶには十分。
*（家にいれて？）*は、なかったですね。*（友だちなんかよりも全然お金もってたって感じ？）*でしたね。それ１年間やりまして、そのお店がちょっと経営者が変わるってことだったんで、私もやめて、で、半年は何もしてなかったんですけど、そろそろしようかなってことで、ウエイトレスっていうんですか？またバイトしたんですけど、ちょっとそこは合わなかったんで、２ヵ月くらいでやめて、また、同じ、コンビニの方で。（コンビニは）まあ、仕事自体は好きですけど、楽なんですよ。たぶん、ほかのコンビニよりはけっこう仕事がいっぱいあったと思うんですけど、まあ、仕事自体は掃除とかも好きなんで、全然。

＜19cf・18 歳・高卒・女性＞

（19cf）は、就職したいという気持ちがなかったわけではないが、学校の就職活動にはほとんどのっていない。現在もアルバイトをしており、特に今後の見通しは持っていない。

東北地区には就職を考えて高校を選択したタイプが多いが、このタイプは高校卒業時に就職活動を行っている。その希望や活動は厳しい労働市場の状況に阻まれているが、卒業後も働こうという気持ちが持続している。

他方で、電車通学がしたいなどの理由で選んだ者は、学校生活にはあまり積極的ではなく、就職活動には至っていない。現在アルバイトしている者もいるが、無職で見通しを持っていない者もいる。

かつては専門学科に入学する者の多くは、高卒で就職するつもりで入学し、これをさらに専門学科の進路指導が就職志望へと水路づけていた。しかし専門学科からの進学が増加した現在、専門学科の水路付け機能は低下し、高校入学時に就職するという希望を明確に持っていた者のみが、高校卒業時の活動を行っている。

2.3　首都圏

首都圏は高学歴者が多いが、大学非進学者は関西や東北地域の高等教育への非進学者と同様の傾向を見せている。以下の例はなりゆきで高校を選択した代表的な例である。

（16cf）は小中学校を通して成績はそこそこで、高校には行こうと思っていた。

大体、先生とかと相談して、<u>自分のレベル的なことと近いこと</u>。*（特にこの学校に行きたいとか？）*そういうのはなかった。多分、普通科でいいかなって、<u>友達が行くんで何となく</u>。

＜16cf・24 歳・高卒・女性＞

深く考えることなく高校を選び、高校に入ってからはしょっちゅう遅刻したり、友達と遊びに行ったりしていた。家庭には経済的余裕があったため進学を勧められたが、高校に通うのが「面倒くさかった」ため、大学には通えないだろうとは思っていた。

その時あまり考えてなくて、進学とかも考えてなくて、そのままなあなあのまま卒業しちゃった。（高校に入る時は）心理学とかやってみたいなとかあったんですけど。大学とか。高校の時とか結構、面倒くさいのがあったんで。通うのが面倒くさい感があったから、大学にこんなんで通えるのかなって。遠かったというか、行くのがだるいというか。*（朝起きて行くのがとか？）*そうですね。そんなのがあったら、友達と遊びに行っちゃったりしてたから、大学なんて通えないかって。（心理学は）多分それは、テレビとか。何かドラマとかで影響されたんだと思う。心理学系の何かそういう系のドラマがあって。

（学校の先生は何か言ってました？）、言ってました。どうするの、どうするのって。どうしましょうねって。何ていうか、その時はほんとうに考えてなかった。ゆっくり考えていけばいいかなぐらいに。

*（ご両親は？）*まあ、ずっと進学したらって。進学はしておいたほうがいいんじゃないかみたいな感じで。多分、あんまり考えたくなかったというか、何かそういう面もあったような。何か定まんないといけないのかわからないけど、考えてない。周りもそういう子が多かったし。

＜16cf・24歳・高卒・女性＞

この若者は、進路活動を何もせず、やりたいことを探すためフリーターになった。大都市進路多様校からフリーターになる、最も典型的な例である。教員も声をかけてはいるが、十分に伝わっていない。就職しようとも思わず、高校卒業時もこれといって進路を考えることもなくそのまま卒業した。高校生の時も決まっていなかったし、現在もすすむ道ややりたいことは定まっていないと語る。正社員になった方がいいかとも考えるが、行動には至っていない。

これに対して、大学進学を希望しながら果たせなかった次の事例においては、もっと学校ランクの高い高校に行きたいと希望し、行けなかったのは残念だと述べている。経済的に豊かではなかったため、高校も公立以外は許されなかったが、大学に進学したいという気持ちも持っていた。

偏差値至上主義という風潮があるんですよ。自分のその通知書の中で、あらかじめ担任は、この学校なら行けるということは伝達されていました。その枠の中で、自分の希望の高校は２ランクぐらい上のところだった。何でそこがいいかと言うと、家から近かったからなんですけど、その上、中学校からも近いし。だけど、あきらめたほうがいいと言われていたんで、ある種異存がありました。それとあと、大概の人は県立、私立と併願なさるんですけど、僕の場合、私立にはとても行けるような状態じゃなかったので、県立一本という感じでした。

＜21cm・31歳・高卒・男性＞

大学へ進学したいと望んでも、自分で学費を稼ぐ必要があり、塾などの学校外機関の利用は難しいなど、いくつものハードルが科されている。そのハードルを超えることは難しく、挫折に至っている。

進学できない環境にいるけれども、でも進学しないのは言いわけじゃないかという気持

ちもあったんで、もともと高校に入ってから大学行ってもいいなという気持ちにはなっていました。新聞配達したのは、新聞配達することで大学に行くための費用を捻出できるということを聞いたことがあるんで、部活とかは何もやっていない自分は、とりあえず定期的にサークルで何かをしようという気持ちがあったんで、そこで新聞配達していました。
つまり、大学にその時点で行っている人というのは、もう既に小学校の遅くても高学年のうちから塾へ行くなり、計画を立てて、自分１人の個人でなく、家族全体で行くという雰囲気もあったし、向かっていくという感じの人が多かったんですよ。僕のような、家庭不和で、本人もいじけしまって、カエルの子はカエルのような子が目覚めたからといっても、すぐになれないんですよ。要領が悪く、時間かけ過ぎ、なおかつ一番必要なコストがなかったんです。*(塾とか行けなかったということ？)* はい。というのが（大学に行けなかった）大きな要因であります。

＜21cm・31 歳・高卒・男性＞

2.4　小括

高校の選択理由を軸に、高校生活・卒業後の進路・将来への見通しについて、プロセスを追ってきた。

まず高校を選択する主な理由を見てみると、大学進学を希望しない層にとっては、学校ランクが高いかどうかは選択にさほどの影響を及ぼさない。主な理由としては、①手に職をつけようと思うが、中卒で働くのも何なので適当に進学先を選ぶタイプ、②友達や近いことや学費を考えつつ、なりゆきで選ぶタイプ、③就職したいので、就職に有利な高校や学科を選ぶタイプがある。

こうした高校選択の姿勢は、高校を離れるときの本人の将来に対する展望とそのための活動と関連が見られる。中学時に高校選択にあたって真剣に考えた者は、高校を離れる時の進路においても真剣に取り組む傾向が見られるのである。そして高校を離れるときに進路を真剣に考えた者においても、現在移行の危機にあるが、将来への希望や展望を持っている傾向がある。

①のタイプは、学校に来るのは面倒だが、アルバイトでは真面目であり、学校を離れてからはアルバイトに打ち込むなど、将来の長期的展望はあるとは言えないが、①のタイプなりの社会参加が見られる。①の背景には、職業能力を身につけるにあたっても、学校を通じて身につけるよりも、仕事の中で身につけることを重視するような、座学よりも実地を重視する家庭の価値観が背景に存在する。

②は、高校の選択基準もあいまいであるが、在学中も特に希望や目標などを持たず、進路選択の時も十分に考えないまま、移行が困難な状況に陥っている。そしてその状況を深く問題だと考えていない者が多い。

③については、在学中も就職の希望を持ち続け、真面目な学校生活を送っているが、卒業時には地方の厳しい若年労働市場の状況により就職ができないという者が特に女性に多く見られる。しかしこうした若者には働こうという気持ちがあり、前向きである。

これらの知見は第一に、高校の選択時や高校卒業時などの節目に当たって、進路について

考えさせるプレッシャーが必要であるということを示している。中学時に考える将来の希望は現実的ではないかもしれないが、進路選択の指導の中で、その時々に真剣に考えるようにプレッシャーをかけていくことは重要だと考えられる。

第二に、学校で勉強することよりも、働くことを高く評価するタイプにおいては、彼らの志向を踏まえた上で、より幅広い情報に接する機会を与えることも考えられる。

またここで対象とした、大学や短大などの一般受験が難しい層の高校生の場合、進路選択にあたっては進学、就職ともに学校推薦が必要となる。高校進路指導は、地方の場合にはまだ機能しているが、大都市では就職の際の条件となるコードに従いたくない者もおり、こうした生徒には影響が薄い。また何をしたいのかわからないと、とりあえずフリーターになる者は、教員の進路指導を避ける傾向が見られる。

しかし実際に利用するかどうかは別にしても、次のケースに見るように、学校が就職への支援をしてくれるという認識は共有されている。学校の進路支援機能を立て直す余地が有るとも言える。

> *(進路指導は？)* あんまりなかったですね。どうするのかをみんなに聞いて、個人でどうするとか言ったら、それに合わせて、先生が多分（対応してくれる）。就職するとなったら、就職の募集のやつを見せてくれたりとか。（*就職に向けての取り組みがはじまるのは？*）４年生の２学期。あんまり覚えてない。（就職については何もしなかった）。卒業したら働こうというつもりはあった。
> *(学校が紹介する正規職員の仕事には？)*、あまり魅力を感じなかった *(金額とか？)* というか、就職というと、イメージ的にも退職までとか…。ずっとやるというイメージがあるから、それはそんなに。全然わからんまますぐにしていいものかと。
> 定時制の場合に、仕事のことについて、学校ではいろんな情報とか、たぶん少なかったと思います。
> （求人は）美容師見習いとか、調理の。会社の事務というのもあった。*(事務も？)* 結構あったように思います。いっぱい、そういう感じ。
>
> **＜17cm・19歳・定時制高卒・男性＞**

３．大学進学者にとっての移行支援機関としての学校

次に、大学に進学した者、または大学進学を希望した者について検討したい。

大学進学者と高校で学校を離れた者を比較すると、すでに例を挙げたが、高校は成績に釣り合ったより学校ランクの高い普通科に進学している。高校時代特にアルバイトをすることなく、進学するのが本人も周りも当然だと思っている中で大学に進学している。

これまでたびたび高校進路研究で指摘されてきたことではあるが、高校で学校を離れた者と比べると、まったく対照的な高校生活と言える。

ここでは、大学への進路選択と就職活動と将来の見通しについて検討する。

大学に進学した者にとっての高校における進路選択は、進学を選んだという意識さえ薄いことが特徴である。大学への進学は、選択肢を広げ、やりたいことをみつけるためという理

由からなされる。学力面でも経済面でも恵まれた若者には、自分の可能性を広げ、探ることができる時期が与えられる、それが大学への進学と言える。経済的に恵まれていない若者にとっての大学進学のハードルは高い。

学部の選択も、就職にあたって自分の選択の幅を狭めない、つぶしがきくという見地からなされる。あるいは何か特定の学部にこだわっていたとしても、就職を意識しているというよりは、勉強してみたいという動機が強いようである。

例えば（34ef）は、高校は自分の学力にみあった普通高校に進学し、当然のように大学進学を希望した。

（経済学部に行ったのは）漠然としていましたけれども、自分の進路がそのころから全然決まっていなかったので、経済学部に行っておけばいろいろと選択肢があるんじゃないかと思って。高校の時はとりあえず進学だったので。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

まあ満足のいく大学に合格でき、楽しい学生時代を過ごしたが、いざ就職にむけて動き出す時期になり、悩みはじめる。

私は出版社を数社受けました。*（編集者になりたいとか？）*そうですね。できればなりたかった。出版社に入りたいというのは就職活動を始めるというぐらいになってから…。出版社にいるといろいろな人に会えたりとか…。ほんとうに漠然とした考えでした。やはり、自分の方向性がはっきり決まっていなかったのがここにもあると思うんですけれども、いろいろな人に会えたりとか、いろいろなことが勉強できる場所だと思ったんですけれども。
そんなにリサーチとかもなく、出版といって気楽に始めてしまって…。だから、（だめだったときは）気持ちがすごくなえていましたね。それと、やっぱり出版を目指したい人というのは、ほんとうに前々からそういう出版社に就職するためのセミナーとかにちゃんと通っていろいろと勉強をしているのに、自分はやってきていないし、自分はそこまでして出版に行きたいという気持ちがあるのかどうかという疑問がすごく出てきましたね。
それで春が終わって。「夏休みは…」って思っていました。（笑）ほんとうに、学生のときは進路について真剣に悩んでいなかったと思います。
そのころから、秋になったらもう一度ちゃんとやろうと思っていたんです。出版とは全く切り離して、とりあえず就職をしなかったら生きていけないし、でも営業は大変そうだしと切り捨てていって、その結果が事務職と。周りが、やはり女の子は事務職という傾向がすごくあったということもあります。
友人が一番相談しやすかったですね。励ましてくれたり、就職部に連れていってくれました。お世話になって…。（就職部は）私は友達が連れていってくれたときぐらいで、あまり行かなかった。ほんとうにひどいんですよ、私の性格は。でも、その私を就職部に連れていってくれた人は、結構ちゃんと通っていろいろと仲良くなったりとか、入ったりとかしていたので、そういうふうに何度も通って、自分でやるぞという人に対しては、やはりそれなりに求人を紹介したりとかをしてくれていたんだと思います。あまり自分の就職意欲が高くなかったんだと思います。絶対にしなければと思ったら、もっといろいろなところに行ったと思うんですけれども。

＜34ef・24 歳・大卒・女性＞

（34ef）は卒業後、アルバイトをしつつ、事務の仕事を目指して簿記を勉強し、資格試験に挑戦している。しかし相談機関を訪れ、いろいろアドバイスをもらったが、自分の目指す仕事が事務でよかったのかと悩んでいるのが現状である。

（35em）も、大学進学は当然という家庭に育ち、大学へ進学した。

> 全く考えたこともなくて、数学がもうほんとにだめだったんで、まあ、文系だなと思って、大して調べもしないで、まあ、文学部はちょっと就職に不利だし、語学部って別に興味ないから、じゃあ、商学部とか経済・経営あたりで、何か就職のときにちょっと有利かなみたいな感じで、その辺の学部を受けただけでした。
> 大学行く、進学というのは、もううちでは当たり前だったと思うんで、自分もそう思ってたし親もそう思っているんで、浪人したときは、何とか浪人させてくださいっていうふうには言ったけど、親も大学進学は当たり前だろうみたいな感じだったんで、適当に浪人させてもらって。
>
> ＜35em・25 歳・大卒・男性＞

浪人はしたが大学に進学し、大学生活を送っていたが、自分を育ててくれた祖母が亡くなったことがきっかけで、将来について考えはじめる。

> ちっちゃい頃からおばあちゃん子だったんですよ。両親が共働きで、うち、お花屋さんを両親がやっているんですけど、もうとにかく全然、僕はおばあちゃんに任せっきりみたいな感じで、保育園からもうずっとおばあちゃん子だって、だから塾とか行ってるときも、おばあちゃんがくれたご飯を食べて行ってみたいな感じで。もう親とはあんまり会わないぐらい。高校のときも…。だから、生き物を扱うというか、植物だから、そんな休みなんか取れるわけもないしというんで、もうほんとにずっとおばあちゃんで、もうおばあちゃん子だったんですけど、それが大学２年の春に死んじゃって。
> それから、すごい考え方が変わったというか、何か就職とかも、大学卒業したら就職しなきゃいけないのかなみたいな疑問を感じるようになって。疑問っていうか、何で…。何だろう…。やっぱりすごい大学入ったときも、おばあちゃんが喜んでくれたし、そういうのもあったのかなという…。
> そのときは、そういうことなかったのかもしれないけど、○○から△△（キャンパスの移動）に３年から移るじゃないですか。とにかく通学が嫌になってきた、遠いし。何か、まあ、３年だからそんなに授業がないから今はいいけど、週５で毎朝毎晩ラッシュでっていうのはちょっときついなと。そんな大企業じゃなきゃいけないの、みたいな感じで。そのときも、すごいいろいろ考え始めた。別に大手に入らなくてもいいんじゃないか。それまで当たり前に思ってたことを、ちょっと考えるように…。
> 多分、３年の春からちょろちょろはあったんですけど、まあ、そのころは多分全然出てなくて、３年の夏休みに友達とスペインとかモロッコに旅行にバックパック背負って行ったんですよ、２週間ちょっと。もうすごい貧乏旅行をしたというか。飛行機のチケットだけを…。それがすごい楽しくて、すごい海外で生活したいって思うようになったというか。
> 何回かは、説明会とかに出ましたね。ただ、まあ、何かやりたい仕事だったら、いいかなって。そのときは、映画は好きで、スノーボードがすごい好きだったので、映画の配給会社と□□スポーツにエントリーシートを出して、でももうそのぐらいしかやらなかった。普通の…。あと、カード。それが何か、海外研修ある、みたいな感じで。あ、海外研修あるんだ、海外行きてーなぐらいので…。
> それはもう全然だめで、エントリーシートからだめだったから。で、もう坊主にしまし

たね、そのときに。「もう就職活動いいや」みたいな感じで、丸ぼうずにして。
＜35em・25歳・大卒・男性＞

（34ef）（35em）ともに、特に将来のことは考えず、当然のように大学へ進学した。大学進学後、就職活動をする時期になり、本人から見ても周りから見てもあやふやな希望に基づき就職活動を行うが、希望が叶わなかったあとに迷いだし、途中で半ば就職活動を離脱する。その後は簿記の勉強、英語の勉強のためにニュージーランドに行くなど、あらたな道を踏み出している。少なくとも将来についてかなり真剣に考えるようになっているが、現在それぞれに道が定まったというわけではない。

（32em）は、高校時代からニーチェを読み、周りにはとっつきにくいという印象を与えていたという。（32em）は、国際関係を勉強したいという理由から大学を選択した。

（大学進学）そこを一番悩んだんですよ。一応進学校だから、９割９分までみんな大学か、あるいは専門学校に行くんですよね。僕も大学に行って卒業したわけですけど、これでいいのかなって。何かベルトコンベアの部品じゃないみたいに思うところがあって、それがまだいまだに引きずっている部分があります。もっともこれだけ就職が厳しくなったら、そんなことも言っていられないやというのもありますけどね。
（悩んで）やっぱり行ったほうがいいかなと。*(大学進学をやめようと思った？)* そういう時期もありました。高校３年ぐらいのときはどうしたらいいかなと。
(そのときに相談できる人は？) クラスメートで。ええ、１人いました。（親は）一応大学に行ったほうがいいぞとは言ってましたね。
(国際学部に行ったのは？) それは、今思えば若気の至りなんですけども、今でも勉強はしているんですが、国際関係の勉強をしたいなと思ったから、単純に国際という名前がつくところを片っ端から受けたという。仕事じゃなくて。勉強をしたいなあというだけだったんで、英語の勉強は一生懸命やったんですよ、浪人時代から。
＜32em・28歳・大卒・男性＞

今から振り返ると、勉強をしたいとは思ったが、将来の仕事とは結びついていなかったと語っている。大学時代は、海外を放浪するなどしたため、単位が取れず、二浪二留ということもあり公務員を目指すが、失敗してしまった。大学院入学も検討したが、将来が不安という判断からいったん実家に戻った。

(大学を卒業した後のことは？) いえ、特に決めてなかったですね。大学時代でつまづいちゃった（二浪二留）ということがあるので、民間のほうで就職活動しようというのがあまりなかったんですよね。今になってみてもやっぱり思うんですけど、周りの人で就職をした人とか話を聞いてみると、大学の就職課、ほとんど機能してないですけどね。一応それを頼って就職した人の話を聞いてみると、コネ以外だったら…。コネがある、昔からつき合いがあるような会社が多いことに気づいて、民間はやめて、じゃ、公務員でやろうと思って、外交官、ノンキャリアのほうを２回受けて、２回受けて残念だったですけど、まあ、いいかと思って。あんまり後腐れはなかったですね。まあ、しようがないかと思って。
当時、自分なりに就職について思ったということは、何か取り柄がないと難しくなっているなと思ったんですよ。派手な生活とかは全然思ってなかったですけど、ノンキャリ

アのほうだったら、いろいろな所に、どこかわかりませんけど、例えばアフリカならアフリカのどこかの国に行かされて、言語を修得してとかそういうことがあるじゃないですか。自分なりにツテを使って、元外交官、ノンキャリアだった人の話を聞いたりとか、あんまり勧めないよということを言われましたけどもね。でも、その人もやっぱり今、外務省をやめてからロシア語の通訳をやっていると言ったし、やっぱりそれだけのすべはあるんだなと思ったので。やっぱりそれはそれで残るわけで、専門性というところかな。それにあこがれたのかな。
２回受けて２回ともだめだったんですが、２次試験まで行ったんだし、それにＯＢの話を聞くと、キャリアとノンキャリアの差はものすごく、カースト制度に近いぐらいにひどいものがあると言うし、何かごまかしとかそういうのはしょっちゅうだと言うので、あんまりそんなあこがれるようなものじゃないと。
ようやく卒業して、ちょっと疲れてたのかな。○○大学の大学院を受けて受かったんですけど。政治学の。受かったんですけど、そんなところを出てどうするんだよと、確かに言われればそうなんですけど、出たからといって、今、職なんかあるわけないなと。自分のおやじ（大学教員）もそう言ったし、自分なりにサーチしてみても、やっぱり否定的な意見が多かったと。（進学はやめて実家に）１回戻って。

＜32em・28 歳・大卒・男性＞

現在は社会保険労務士の資格も取得したが、就職は難しい状況にあると語っており、将来はあまり見えていないと言う。

（48em）は、小学生の頃から何をしても優れている部分がなく、人間関係に悩んでいた。これを克服しようとがんばって高校を受験したが、失敗してしまった。

その当時の自分の学力で、行けるところならなるべく、高めのところだったんですが、なかなか苦労はしました。中堅校だったんですけれども、何とか受けたんですけれども、残念な結果に終わってしまいました。それで滑りどめで受けていた私立の高校に。*（受験校を決めるときは、ご両親とか先生にご相談なさったんですか？）*しました、やっぱり。今の学力では難しいと言われました。

＜48em・24 歳・大卒・男性＞

高校進学後、病気で学校を休んだ時期があり、心を閉ざすようになったという。高校はやっとのことで卒業し、浪人を経て大学に進学した。大学は工学部に進学し、アルバイトもした。はじめは慣れるのが大変だったが、大学後半になってから友達とも話すようになっていったという。就職には真面目に取り組んだ。

*（就職は？）*それは大学のほうで、３年の夏前ぐらいから就職のガイダンスみたいなことをやってました。*（出席されたんですか？）*。ええ、しました。就職はもう全然わけがわからなかったので。何が何でも就職できないと、ほんとうにお話にならないので。就職したかったです。
パソコンのインターネットの就職サイトみたいなのありますよね、リクナビだとか。そういうのを就職課が教えてくれたので、そこから入って。それを見始めたのは 10 月だか 11 月頭あたりで。なかなか自分のやりたい仕事が見つからなくて。ある日どこかの会社から会社説明会のチラシが来てて。何かやらないと、ということで２月ぐらいから会社の説明会とか行き始めて。２月になってくると何かいろいろと合同会社説明会があるじゃないですか。どこにでも参加するようにして。受ける仕事の種類はさまざまでし

たね。もう入れそうなところだったらどこでも。
大体２月、３月ぐらい。３月ぐらいでもうパソコンのインターネットの仕事探しというのは嫌気が差してきて。４月ぐらいからですかね、やっていて、ちょっと嫌気が差してきたので、就職課のほうに相談して。就職課の求人を見て探すことにしたんです。５月と６月ですね。大体５月ですかね、５月、６月ぐらいに何社か受けて、６月 20 日に内定をいただいたんです。特に希望とかそういうものははっきり言って、最近は就職が厳しいと聞いていたので、もうやりたいことではなく、自分のできそうなことなら何にでも挑戦しようという気持ちでいましたので。ほっとしたという。
６月、２社だったんですけど。１社がもう面接だけだったから、チャンスだと思って。この会社に落ちたらもう就職できないのかなみたいな気持ちで。もう神経がとがってたというか、気持ちが張ってましたね。ほんとうにもうこの会社は入れなかったらどうするのかなというときに、その内定のお電話が来たって親から知らされて。よかったです。ほんと。

＜48em・24 歳・大卒・男性＞

こうして卒業直前まで就職活動をがんばりやっと仕事を得たが、仕事になじめず、半ば首になるようなかたちで離職し、現在は職業訓練中である。しかし訓練を受けている職種での就職は難しいと語っている。

（47em）も大学は当然のように進学した。

（大学は）ああ、もう最初から行こうと思ってたんで。高校に入ってからですかね。結構、当たり前みたいに。わりと当たり前ぐらいの感覚だったんで。周り（の友達の影響）かな、やっぱり。両親は、やりたいことがあったら別に行かなくてもって性格だったんですけど、特にまだやりたいことは見つからないし、とりあえず大学っていうのが最初にあったんで。

＜47em・26 歳・大卒・男性＞

（47em）は、大学卒業後は就職するという強い気持ちを持って、早めに就職活動をスタートした。その努力が報われ、何とか在学中に内定を得ることができた。

洋服が好きだったんで、アパレル１本で業種、業界を絞って、学校の就職課とか情報とか来ますよね。ああいうのはほとんど頼らないで、自分で○○学院(服飾系専門学校)のホームページをみたりとか。自分なりにいろいろ自己分析してとか、何かいろいろ本を読んだりしたりとか。
（就職活動は）３年の秋ぐらいですね。（就職をしなきゃって気持ちが）まあ、強かったですね。いや、働くのは当たり前だから。とりあえずぎりぎりで決まって。４年生の２月。

＜47em・26 歳・大卒・男性＞

しかし就職先でがんばって働いたが、早期に離職を余儀なくされた。自発的離職という形をとっているが、解雇に近かったと語っている。離職直後はこのあとまた仕事につけるのかなど不安でいっぱいだったが、若者支援機関を利用し、自分を立て直しつつある。また出身大学の就職部を尋ね、相談もしている。現在は就職活動をはじめようとしているところであ

る。

（8dm）は、大学に入るまで特に問題なく、流れにのってやってきたという。面倒な人間関係や、将来について深く考えることを避けてきた。学力的に大学に行けるとは思っておらず、自分が文化系か理科系かもよくわかっていなかったが、先生に大学への推薦を紹介され、推薦でいける工学部に進学した。

多分、（自分は）理科系なんだと思うんですけど、数学をとっているということはそっち…。たまたま、二択でどっちかと言われたら、どっちかに丸をつけると、こっちを選んだ人はこういう教科をとりなさいというところがあるからだと思います。（文科系か理科系か）どっちを選んでも大差ないなと思ってました。大学に行こうということが前提じゃなかったんで。なるべく何も考えたくなかったんで。
たまたま理系に〇つけて出して、周りが「おまえ、何で理系なんだ」。「じゃ、理系やるよ」って。*（理系をとったら大学は推薦で自動的に理系になったと？）*そう。だから、自動的に上がれちゃった。だから、それが決まったときにものすごい悩んで、結局、先延ばしにはするけど、絶対、この何年後かに大変だというのはわかっていて、いっちゃった後がすごい悩んでいた。*（悩んで、でも、大学には進学しちゃった？）*うん。しなかったら、何にもしない状況。
（どういう学部に行きたいとか）ずうっと持たないで、ここまでこう、16～17まで来て、何かやりたいことを見つけておかなきゃ、どんな仕事をするのかって方針を持たなきゃというのは、周りから聞かれるから持たなきゃというのは思っていて、で、高校３年の秋になってみたら推薦の枠があるんだけどっていって、そっちにね。
*（将来、何になりたいとか、そういうのは？）*なくて、ただ大学に行けるってふうに考えてなかったんで。大学なんて、そんな簡単に行けるものじゃないって周りが。じゃ、まあ、いいやと。

＜8dm・24歳・大学中退・男性＞

この若者は厳しい工学部に進学したために、単位を取れず中退せざるを得なくなった。このあと編集の専門学校に進学し、ライターの卵として修行するかたわら、短期のアルバイトをしている。このままではいけないと感じており、将来を模索中である。

（11dm）は、幼い頃から両親の転勤で、全国を転々としていた。高校時代に両親は海外に転勤するが、本人は残った。ごく当然のように大学を目指すようになる。

そうですね、このころになってもまだ抜けてなくて、むしろ何となく大学と考えていました。*（ご両親とか学校とかに？）*相談する間もなく。そうですね。普通はやっぱそうですね。
*（学部とか学科とか？）*そういうところなんかも、要するにつぶしがきくだろうと、法学部に。

＜11dm・32歳・大学中退・男性＞

大学を目指して浪人中、友達がなかなかできず、孤立してしまう。やっと大学へ進学したときにはかなり精神的にまいってしまっていた。

大学入学後は大学には行かず、参加していたサークル活動の人間関係も絶え、アルバイトもしていなかった。

> ほんとうに、何ていうのかな、逆に言うとサークルだけ出ていて、学校も出てなくて、だんだんそこら辺でギャップが周りとできて、１年、２年間は楽しかったですけど、だんだんやっぱりサークルのほうも、学校へ行かないということで、だんだんあんまりうまくまわんなくなってきて。
> で、親のほうもまだアメリカいたので、特に何も言わずにいたんですけれども、３年に上がる段になって３年に上がる単位がなかったので、留年すると、親のほうから「学校行ってないのか、おまえ」って。そのころ要するに学校に行っていないと、うちの親の口癖が「20 歳過ぎたら親に養育義務はないんだから」、そういうふうにはよく言われていまして、そうはいっても自分のほうで何を考えるかというと、ごまかしごまかしやって、大学に通っていたいと。その後、大学に行かずに何年間か留年を繰り返していて、中退という形ですね。
> 全部で６年間です。（サークルをやめた後）全く何もしない生活です。本とあと、ゲームですね。今ほんとうに思い出してもよくわからない状況でした。やっぱりどちらかといえば、後ろ向きなことをよく考えていた。
> というか、要するになんていうのかな、時間のことを考えるのではなくて、生きることを考え出すんですよ。自分のことがままならくなると。自分の場合は。要するにこの世の中って何でこうなんだという哲学…。何で人間は生きているだろうとか。哲学系の本ではなくて、ほんとうに小説。そんなに小説は読んでないけど、ただ、短編集かな。阿刀田高とかその辺かな。あと、そうですね、ショートショート。そこら辺を結構読みつつ。あと椎名誠。そんな感じで。要するにただ生きてるのって時間が余っているから、自由になっては本をみたいな感じ。
> *（大学を離れることにしたのは？）*それは、もう一つには、自分の年からいって普通に大学に行って、卒業してというふうな、要するにいろいろと普通だったら乗り越えるべきハードルがありますが、それを全部踏み倒していく段になって、ここまで年とったんならいいやという、その生き方をあきらめたという…。26、7 ですね。*（大学をやめることにしたのは、自分と両親の？）*両方の。何となく、何となくそうだろうと…。
>
> **＜11dm・32 歳・大学中退・男性＞**

社会とのつながりをなくしてしまったまま、何の見通しもなく大学を離れた。その後アルバイトをはじめたが長続きせず、その理由が自分の対人能力にあることを感じたため、同じ悩みを持つグループに参加するようになった。現在は、アルバイトを続けることができるようになっており、放送大学も利用するなど、社会参加ができるようになっている。

3.1　小括

大学進学者は､大学進学が当然という環境の中で進学している｡この層の若者においては、より学校ランクの高い高校や大学に進学したいというアスピレーションがいまだ共有されている。しかし「とりあえず進学」であり、大学を卒業したその先のイメージはないものの、その後は差異が見られる。

希望者のきわめて多いマスコミ系や超大企業を希望し、ほんの少し就職活動をして離脱してしまう早期就職活動断念者、それなりにがんばったが試験に失敗するなどした内定非獲得者、就職するという意気込みで内定を獲得したが、半ば解雇に近い状況で離職した内定獲得

（早期離職）者と、やむを得ず大学を離れた未展望者に分類できる。

大学の就職部、あるいは大学を移行支援機関として利用しているのは、就職したいという気持ちが強い者に限られている。他方、卒業後に、大学の就職部に尋ねて相談する若者もおり、卒業後も移行支援機能を果たしている側面も見られる。こうした卒業後のフォローアップも重要である。

４．学校は移行支援機能を強化できるのか

本章では、若者のインタビューを通じて、学校という移行支援機関が果たす役割について考えるための手がかりを探った。

第一に、高校選択の態度は、高校を離れるときの進路選択およびその後の将来に対する展望と関連が見られた。中学時に高校選択にあたって真剣に考えた者は、高校を離れる時の進路選択においても真剣に取り組む傾向が見られるのである。そして高校を離れるときに進路を真剣に考えた者は、現在移行の危機にあっても、将来への希望や展望を持っている傾向がある。これまで言い古されたことではあるが、進路選択の節目において、進路指導は生徒に対してプレッシャーをかけていく必要がある。

しかしながら第二に、直接的な支援である高校進路指導が支援として機能する余地がある若者は限定されつつあるということである。高校で教育を離れる若者にとっては、学校よりも実際に働くことを重要だと考える傾向が強い。また就職のために校則に従うことを避ける生徒もいる。こうした進路指導を忌避するタイプの生徒には、進路指導の密度を高めても、進路指導が影響を及ぼすことは難しいと考えられる。なおこうしたタイプの生徒の分析は大都市に多く見られるが、次章で詳しく検討されている。高校の進路指導においても、こうした生徒の選択を容認する傾向が見られる（耳塚編 2002)。

しかしたとえ学校が移行支援に果たせる役割が限られてきているとしても、学校自らが移行支援機能を放棄してよいということではない。特に高校においては、利用するしないにかかわらず、学校が移行支援機能を持っていることは認知されている。少なくとも学校という組織は、移行支援において重要な役割を担っているという認識は持つべきである。

他方において、地方の高校生に対しては、高校の進路指導が移行支援としてまだ大きな役割を果たしていることも確認できる。特に労働市場の状況が厳しい地域においては、今後も重要な機能を果たすことが望まれる。ただしどちらの地域においても、高卒就職が狭隘化する中で、高卒者に対する補完的な支援の必要性は増してきている。

第三に、進学率が高まり、中卒や高校中退はもちろん、高校を出てもよい仕事は得にくいという状況が誰の目にも明らかになる中、ますます不利な立場に置かれることになる高卒以下の学歴の若者に対して、高い学歴を獲得させ、就職を有利にするという支援の方向も考えられる。

しかしながら、このインタビューを通じて見える若者は、高校に入学する以前から就職を

希望していたり、働くことは嫌いではないが、勉強するのは好きではないというタイプが多くを占める。上級学校へ進学したとしても、なじめないことも予想される。中等教育まではともかくとして、より高いスキルを獲得させるために高等教育への進学を支援するという支援は、対象者の適用範囲が狭いことも予想される。ただし彼らに、様々な進路の可能性があるという選択肢の情報提供は欠かせない。

第四に、大学に進んだ若者の将来展望の欠如に対する働きかけの必要性である。当然のように進学し、さしたる入学動機がないことはもちろん、就職活動を迎える時期になっても、仕事をするという実感がない高学歴の若者はあまりに多い。また大学の就職部が移行支援として有効に機能するのは、本人に就職するという明確な気持ちがある場合に限られる。ただし卒業後も卒業生が相談に訪れるなど、卒業後のフォローを行っている大学も見られた。

低学歴の若者とは異なり、高学歴の若者は経済的に恵まれているが故に、働くことに対する切実感が薄く、「やりたいこと」をしなくてはならないという強迫観念も強い。高学歴の若者が、自分の希望と現実との折り合いをうまくつけることができるために、カウンセリング機能を持つ機関が今後補完的支援として重要になってくるだろう。

学校が行う包括的支援は今後も重要であり続けることはまちがいない。学校の側にも支援の充実が求められる。しかし学校だけが包括的な支援を担うという時代は終わり、日本においても補完的支援の充実が求められる段階に入ったと言える。

参考文献

苅谷剛彦（1991）『学校・職業・選抜の社会学』東京大学出版会
小杉礼子編（2002）『自由の代償—フリーター』日本労働研究機構
堀有喜衣（2000）「進路指導の実態・評価とその影響」日本労働研究機構『進路決定をめぐる高校生の意識と行動』調査研究報告書№138
耳塚寛明編（2000）『高卒無業者の教育社会学的研究』文部省科学研究費報告書
耳塚寛明編（2003）『高卒無業者の教育社会学的研究（２）』日本学術振興会科学研究費報告書
労働政策研究・研修機構（2004）『諸外国の若者就業支援政策の展開—ドイツとアメリカを中心に』労働政策研究報告書№.1
竹内洋（1995）『日本のメリトクラシー』東京大学出版会